

高崎ユネスコ協会会長賞

人とつながるということ

高崎市立西小学校 五年 寺田 雪華

私は、小さい頃から母に、

「あなたは、病気もしょう害もなく、ふつうに生活できている、ある意味強い人間だよ。それは、病気やしょう害がある人たちの助けになれるということなんだよ。」と話されてきました。

小学一年生の時、私は、祖母が毎月ユニセフに寄付していることを聞いて、私も祖父母にももらったお小づかみやみなさんにももらったお年玉を全て寄付しようと思いました。しかし、母に、

「お金を寄付するのは、自分の力でお金をかせげるようになってからね。」と言われ、困ってしまいました。すると、

「子供でもできる社会こうけんがあるよ。かみの毛を伸ばして、病気でかみの毛をなくしたお友達に使ってもらうの。ヘアドネーションというんだよ。」

と母が教えてくれました。その時、私も自分にもできることがあると分かってとにかくうれしかったです。その後、かみの毛を三年間伸ばしました。かみの毛が長いのは大変です。例えば、かみの毛を洗うことや、かみの毛をかかわすことです。冬の場合は、かみの毛が長いとあたたかいけれど、風がふくとぼさぼさになります。夏のプールの時は、プールぼうにかみの毛を入れるのがとても大変でした。一年中私の長いかみの毛をしばる母も大変だったと思いますが、親子でがんばりました。

そして、去年の夏、ヘアドネーションをすることができました。でもやっぱり私は、長いかみの毛が好きです。私は、母が作ってくれたかわいい大きなリボンをつけるのが大好きです。かわいいかみ型をしてもらうのも大好きです。病気やしょう害でかみをなくしたお友達も好きだと思います。今までしたくてもできなかったお友達が、私のかみの毛で、好きなかみ型をしたり、かわいいリボンをつけたりして、楽しめると思うとうれしくてたまりません。かみの毛を伸ばし始めた頃は、ヘアドネーションをした人を知りませんでした。今は、友人二人もしました。たくさんの方が興味をもつよう、ヘアドネーションの話をするようにしています。そして、私は、これからもヘアドネーションをしたいので、また、かみの毛を伸ばしています。

きっかけとなった祖母のユニセフへの寄付は、戦争の犠牲や、医療を受けられない子供たちへの支援です。第二次世界大戦後や伊勢湾台風、東北の震災時など、日本の子供たちも助けられました。祖母は十七年以上毎月寄付を続けています。続けて支援できれば、できる事が大きくなり、支援を受けられる人が増えます。遠い国の人たちに、直接役に立つ事は難しいですが、一生けん命勉強して、継続的に寄付ができ、世界の一番困っている子供たちの役に立てる大人になりたいです。